

共助～地域での防災対策～

「共助」は災害を乗り越える鍵です。日頃から積極的に地域との繋がりを持ち、自分たちの地域は自分たちで守る意識を持ちましょう。

防災訓練・研修会の実施

日頃から自治会や自主防災会などで開催される防災訓練等の行事に積極的に参加し、地域の人たちとコミュニケーションを取り、いざという時の協力体制を構築しましょう。

〈津市の制度〉

防災訓練・研修への職員派遣

津市の防災対策や、個人・家庭・地域のできる防災対策の説明(30分～1時間程度)などを行います。

費用 無料(会場使用料等は自己負担)

締め切り 開催希望日の1カ月前まで

啓発用物品の提供

津市では賞味期限が近づいた防災備蓄食料(カンパン、アルファ化米等)を提供をしています。防災活動行事などに活用していただき、防災意識の向上にお役立てください。



防災資機材の準備・整備

自主防災活動を行うためには、活動に必要な資機材を事前に準備・整備しておく必要があります。

地域の実情や組織規模からみて、自分たちの地域では災害時にどのような取り組みを行い、それ

にはどのくらいの資機材が必要かを検討し、準備しておきましょう。また、整備するだけではなく、整備したものをを用いて訓練を実施しましょう。



一身田地区自主防災協議会の取り組み

一身田地区自主防災協議会 会長 岡野 勇治

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、一身田地区も、歩こう会、グラウンドゴルフ、親睦旅行、踊り、絵画、着付け、体操、絵手紙、お茶、お花などのサークル活動が次々に復活し、町中には明るい笑顔、楽しい語らいが飛び交い、3密を回避していたことによる絆の希薄化なども、無用の心配となりました。

新体制によるオール自治会長会議でも「高田本山における大盆踊り大会」「自主防災リーダー実践塾」などの再開が賛成多数で可決され、特に後者は各地区自治会長、各種団体の長の共通かつ喫緊の懸案事項であることがうかがわれました。

しかし、なにぶんにも準備日数が短く、その上急ぎでの準備過程の最中「自主防災リーダー実践塾」に併せて、町の皆さんの防災意識を高めることを目的に、一般参加による「防災体験・防災展」もやろうという声が上がりました。執行部では、あまりにも詰め込み過ぎで、世話役不足や、肝心の一般参加者の確保ができるのかなど不安がたくさんありましたが、オール一身田、チーム一身田の一念で、6月18日、一身田小学校の施設をお

借りして開催いたしました。ところが、いざ幕を開けたら老若男女たくさんの人にお越しいたごき、実のある「防災体験・防災展」になりました。終了後のアンケートには、「毎年やるべき」と積極的なご意見をたくさん頂戴しました。

開催にあたり、体験コーナーでは災害用伝言ダイヤル、液状化現象、疑似ガラス踏みつけ、段ボールベッド・簡易トイレ組立、AED操作等を、また展示コーナーでは非常食、持ち出し袋、照明器具等を、そして大人も子どもも興味津々の地震体験車、救急車、消防自動車の展示等の内容をご提供いただいた関係機関、支援団体の多大なるご助力と、ご参加いただいた皆さんに厚く御礼を申し上げます。

